

- ちよこバスの今後の予定
- 補助金の一律削減の考え方と必要性
- ゴミ有料化などについて
- 20年度予算報告

ちよこバス経費、補助金終了で、19年度から、4900万円の支出

問 武蔵村山市との協力要請と当市の中間報告以降の予定は

答 平成19年11月22日に第1回東大和地域公共交通会議を開き、平成19年11月から毎月1回ずつの会議を重ねています。20年度に認可変更申請をいたしまして、それと並行に施設整備を行う予定であります。次に、21年度に運行形態をスタートとすることを各委員さんに検討いただいております。この日程につきましては、3・4・26号線の工事が20年度、また東京街道団地の外周道路工事が20年度に行われるということになります。このようなスケジュールを立てているところでございます。

問 東大和地域公共交通会議の委員さんほどの様な方々ですか

答 公共交通会議の義を認めるということで、今回の委員さんは、公募を行い地域の代表の方に出させていただいております。

問 現在までのちよこバスに掛かった経費と今後の必要経費は

答 導入から18年度までの経費を申し上げますと、国庫補助金としましては578万1000円、これは車両の購入費です。それから東京都の補助金で、4050万円、この内訳は、車両購入費が1800万円、それから36カ月の運行経費が2250万円、そのほか市負担分として1億7115万1000円です。合計で2億1743万2000円の支出がございます。国からの補助や東京都の補助は今は見込めません。その中で年間経費といたしましては、18年度決算では、4900万円程度の経費がかかっております。今後の運行経費としては、広告収入・運賃収入で賄っていく、それに市の補助金ですね、それで賄っていくこととございまして、できる限り運賃収入・広告収入を上げることによって市の負担が減ってくるわけですから、増客の手段、それから広告料の増収につながる努力をしてまいりたいと考えてございます。

問 今後は、4900万円以外に車両の買換えなど諸経費が掛かってくるかと

答 この諸経費などは、どの様に考えていますか

答 先ほど18年度決算をもとに年間の諸経費を申し上げます。さらに一時的経費として、車両の買換え費、それからルートを変更することによって増設するバス停の費用、それから廃止になるバス停の復旧費等がかかってきます。耐用年数は、今の考えでは、平成21年度から24年度にかけて買換えが必要になるであろうと見込まれています。そうしますと車は約1台当たり1300万円程度かかりますので、今後先ほど申し上げました年間諸経費のほかに一時的な経費がかかってくるということとございまして、

問 現状で4900万円程度がちよこバス経費が掛かります。今後、車両の買換えに必要な経費の捻出方法は？また、車両買換えは、国や東京都から補助金など見込めるのでしょうか？

答 ちよこバスの買換えの補助金は、無いと認識してあります。

要望 私の考えは、バス業者への補助により必要地域への路線要望などが良いと考えています。しかし、当市は交通不便地域の解消から当市で行うとの考えです。ちよこバス運行経費の捻出には、今後しっかりと目を光らせていただきます。

ごみ有料化！市長「市民に負担かけたくない！」

ゴミ処理費用年間6億円！負担軽減策は市民の意識改革？！

問 ゴミ削減の方法として有料化の考えはありますか？また有料化などを行うための試算は行いましたか

答 ゴミの有料化は、市長の方針「有料化しない」との事ですので試算は行っていません。今後の排出ゴミの削減方法はどのように考えているのか？

問 今後はゴミゼロプランに盛り込まれた施策を行ってゆきます。具体的には、リサイクル率を現行の24%から35%に目指す事や容器包装プラスチックの資源化・生ゴミ排出時の水切りの徹底を市民への提言及び啓発活動を行ってゆきます。

問 次に、集団回収については、出前講座などにより、市民への周知を図っていますが現在の状況は？

答 集団回収については、自治会数78団体中10団体・マンション等管理組合は、54段対中4団体で実施しています。また、今後も土曜日曜を問わず各団体に実施願いを要望し制度の説明会など集団回収への移行については、重々お願いしてゆきます。

要望・提案 ゴミに掛かる費用の削減方法などの方策や検討はありますか？またいつもどおりの提案ですが、当市独自または三市で、排出量の削減方法があるのですが、検討していただけますか？内容は、生ゴミ・廃プラなど東大和市で言う「生ゴミ」に当たりの排出ゴミを釜のような処理機に入れると、水分とくず程度の大きさに分解できる装置が、ある大学の研究により製造されています。この処理機は現在、大手コンビニエンスの弁当などを製造している会社でも導入され、

残飯などの処理に使われています。この処理機で発生する水分は、多くの塩分等を含んでいますが、この水分処理も装置も可能です。先ほどの民間業者は残飯処理で出たくずをプラスチック燃料や堆肥などに再利用しています。また水分については、しっかりと処理をして、河川へ排出しているとの話でした。この処理機はもろろん初期導入で莫大な資金が必要ですが、東大和市のミの量の処理能力であれば、4基導入すれば可能だとの見解をいただいております。もちろん臭いなど近隣住民への問題もないとの話です。また施設建設に必要な敷地は、リサイクルセンター程度で可能との事でした。この処理機を4基・水処理機を入れても総額で6億円程度で可能との試算もいただきました。もし、この装置を当市で導入すれば、図1の負担金は、もちろん削減できます。年間1億円ずつ削減するとして、3年から5年で償却出来、なおかつその後は、年間2億円から6億円の財源が確保できるのです。これは、提案・要望ですので、検討してください。

小平・村山・大和衛生組合の負担金（東大和市駅近くのゴミ中間処理場です）

17年度 3億9834万円
18年度 4億3464万円
19年度 3億8635万円

広域資源環境組合負担金（日の出の最終処分場です）

17年度 1億8818万円
18年度 2億5655万円
19年度 2億1612万円

この負担金については、各市割の分配金と搬入量割で計算されます。東大和市の3年間の負担金を見ると、右記の様に、負担金の増額化がみられます。これは、何を意味するかとすると、他市に比べて、東大和市のゴミの排出量の削減努力が悪いという事になります。東大和市も当然毎年、資源ごみ化・排出量削減の方策を進めています、それ以上に他市の削減努力の方が早いとも読み取れるのです。

そこで、下記のような提案を東大和市に提言しています。みなさんはどう思いますか？

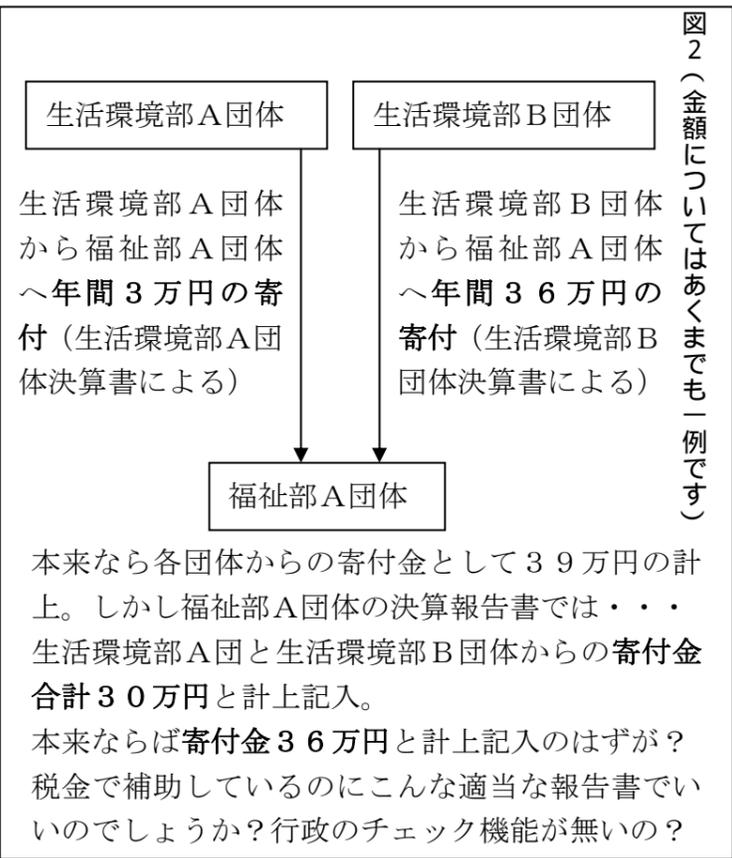
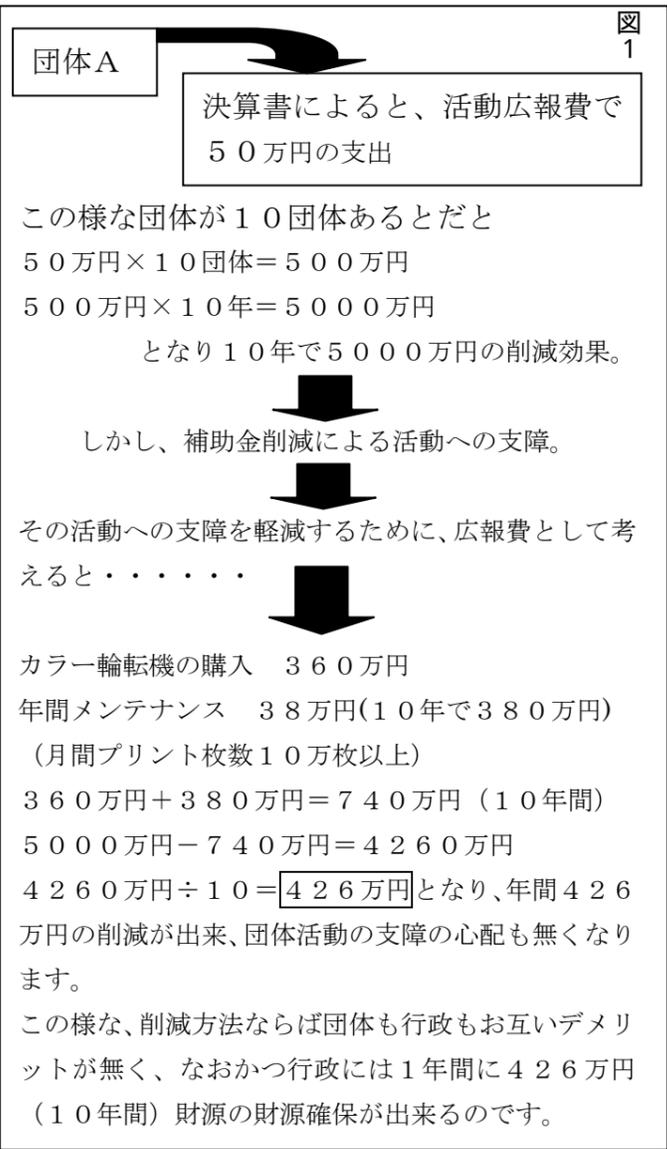
補助金カットに問題アリ

20年度予算、財政難の為、補助金一律20%削除？！

補助金削減理由は「厳しい財政状況」とのこと。
補助金削減団体には、「削減後の運営をがんばって欲しい」と、他力本願！の通知です。各団体からは、「ただ、一律削減の通達を受けただけで話し合いも何も無い」「運営できない」との声もあ
ります。補助金団体は行政が必要と考える運営を民間団体で行い、その足りない部分を金銭で補
助するのが、補助金の制度の一部です。今年の様な財政難になることは、5年以上前から分かっ
ていた事。各団体の経費など、団体の活動状況を把握していれば、補助金削減でも運営できる。

団体への補助金、削減しても、活動のバックアップが必要！

その方法とは、多くの補助団体は、活動広報を発行している。ある団体では年間50万円
かけて活動広報を発行しています。この様な団体が5団体あれば、1団体50万円ですか
ら、5団体で250万円。10年で2500万円。補助金として必要になります。これを、
5団体にカラー輪転機を公民館など自由に使える施設で購入すれば、5団体以外の団体も
利用できる。印刷費については、登録制・非登録制は検討課題ですが、紙は持ち込みで、
1枚1円など安価で利用できるようにする。この体制にかかる経費は、初期費用（カラー
輪転機購入費）360万円、メンテナンス年間38万円（月間プリント枚数10万以上）
だとします。10年間で計算すると740万円になります。差引1760万円です。この
方法なら、団体への補助金を減しても団体活動にも支障は出ないし、市行政としても1
0年で1760万円、単年で176万円削減できるのです。（削減案は図1を参照）
団体への補助金理由（下記参照）から考えれば、補助金を削減するだけではなく、しっか
りと行政のバックアップを考えた削減案の提案が欲しいものです



17年度に質問した補助団体の事業活動に関する全ての領収書の添付を実行、補助団体の事業内容の把握と他部署との連携をと要望しました。その結果を聞いたところ、領収書の添付は、全部ではないが提出するようにしている。また、補助金の申請については、審査を各部署で実施している。他部署との連携については、今後も引き続き各課に徹底を図るとの回答でした。今回、なぜ同じ質問をしたかと言うと、17年度、私が見つけたある団体の寄付行為について、改善されていなかったのが一般質問をしたのです。その内容は、補助金をもらっている生活環境部の団体Aと生活環境部の団体Bが福祉部担当の団体に、寄付を行っていたとの事です。問題1としては、生活環境部のA・B団体は、事業を行うのに足りない為、東大和市から補助金をもらっています。また福祉部の団体も同じように補助金をもらっています。事業資金が足りない為にもらっている補助金を寄付してよいのか？

問題2（図2参照）としては、その生活環境部のA・B団体が寄付金の合算金額（決算書確認）と福祉部の団体が、寄付を受けた金額（決算書確認）の金額が合わないのです。17年度に確認が取れ、一般質問で問題提言をしたにもかかわらず、何の解決もしていません。今回の一般質問では、以下の様な答えでした。

補助金の事業報告チェック機能、こんな事で大丈夫?! 部署毎の連携強化を!

生活環境部で支出している補助金は、運営全般に適用する、いわば自由に使える補助金ではない。しかし自主財源による寄付は、特に東大和市の方から指定するものではない。また、故意あるいはミスとのことであれば、返還命令なども考えられます。と生活環境部の回答です。福祉部については、生活環境部との関係がある団体とのことですが、補助対象となるのは、人件費、事務費その他事業の運営費に関する経費です。今後決算報告書にて確認しますが、報告書が誤りがあった場合は、正していただいて、返還命令を出します。また、偽りだった場合は、規定により全部または一部返還命令をします。これを受けて市長より、補助金問題・部署の連携について、厳しく真剣に対応します。と答弁がありました。もちろん真剣に対応すると答弁をもらいましたので、引き続き6月議会で再度確認します。

また、6月議会は、3日から始まり、4日～10日までが一般質問です。今回の私の質問は、9日の午後または10日ごろの予定です。（変更あり）

3月議会で、提出された、国民健康保険税の19%アップについては、反対多数で否決されました。（もちろん私も反対でした。）6月議会では、3月議会で否決された国民健康保険税の3ヶ月間の暫定予算が切れます。再度、今議会にて国民健康保険税の新案が提出されます。削減するところは削減し、少しでも税率アップを抑えて欲しいものです。どの様な新案が出されるのか楽しみでもあり、不安でもあります。



関野たかなり

昭和48年10月14日（35歳）
身長183cm 体重80kg
2003年 29歳・初当選
2007年 33歳・2期目当選
現在の役職
政策の会 代表
総務委員会副委員長
都市計画評議員
東京たま広域資源循環組合委員